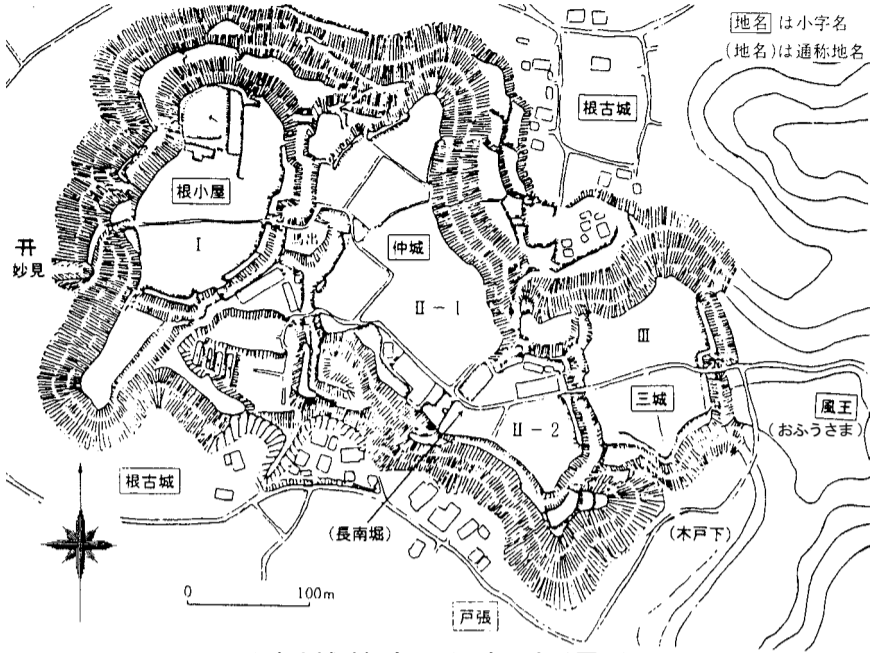


「香取の中世遺跡」 東氏と森山城跡



▲森山城跡概念図（三島正之氏原図）

城の概要

城は、黒部川とその支流

森山城跡（岡飯田）は、東氏の居城と伝えられています。東氏は、千葉氏の祖、平常胤の六男胤頼が、治承4年（1180）に立花郷（橋庄II「香取郡東庄三三郷」）を領有することにより、東氏を名乗ったことに始まりとされています。

胤頼から数えて三代目の胤行は、承久の乱（1221年）の軍功により美濃国郡上郡山田荘（岐阜県郡上八幡市）に領地を得、その子行氏は美濃東氏の祖となりました。連歌師飯尾宗祇に古今伝授を行った東常縁は、その子孫になります。

に挟まれた東西にのびる半島状の台地に築かれ、その規模は南北約430m、東西約620mに及びます。

城の構造は、直線連郭式の山城と呼ばれるもので、郭や空堀などの遺構も良好な状態で残っています。

台地の西端から、根小屋・仲城・三城と城に関係する小字名が残っており、このあたりが城の中心部であったと考えられます。それぞれの郭は、空堀で区画され、土橋によってつながれています。

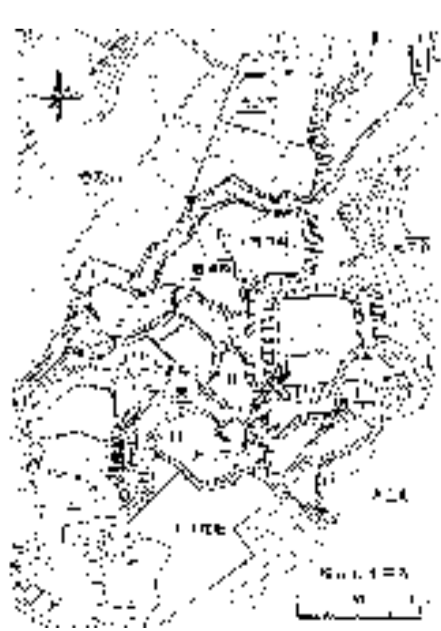
「根小屋」は「根古屋」とも書き、平時に兵が居住した場所のことを指します。織豊期以降、平城の普及とともに消滅してゆきますが、小字名として各地に残っています。

三城の東には、鳳凰社の祠があり、地元では「おふうさま」と呼ばれています。

この区画の東側約300mに須賀山城跡があります。

東氏は、前野城（旭市桜井）に居住していましたが、のちに沼闕城（東庄町小南）へ移ったと伝えられています。

「小見川町史」では、文治元年（1185）に胤頼が須賀山城を築き、建保6年（1218）にはこれを壊し、森山城を築城して移ったとしています。



▲須賀山城跡主要部概念図

築城の時期は

を設置した年です。

森山城の築城の時期を、鎌倉時代とすることに異論も出ています。いわゆる「馬出し」とされている施設が、戦国時代末期の特徴であることから、築城の時期は16世紀初頭まで下がる

するものです。築城時期や東氏との関りは、今後の調査成果をまたなければなりません。

なお、須賀山城の麓にある芳泰寺には、胤頼夫妻の墓と伝えられる2基の五輪塔があり、昭和51年に市の文化財に指定されています。